

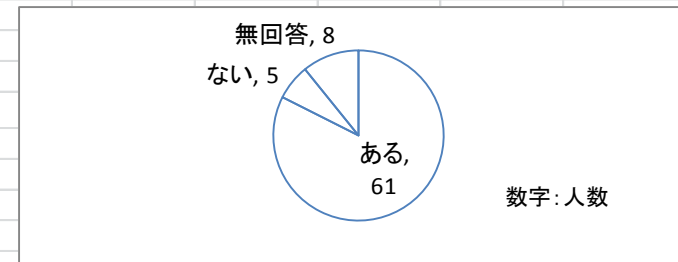
2017年ひとこと提案集計(西東京・生活者ネットワーク実施)

回答者: 74人

在宅介護について

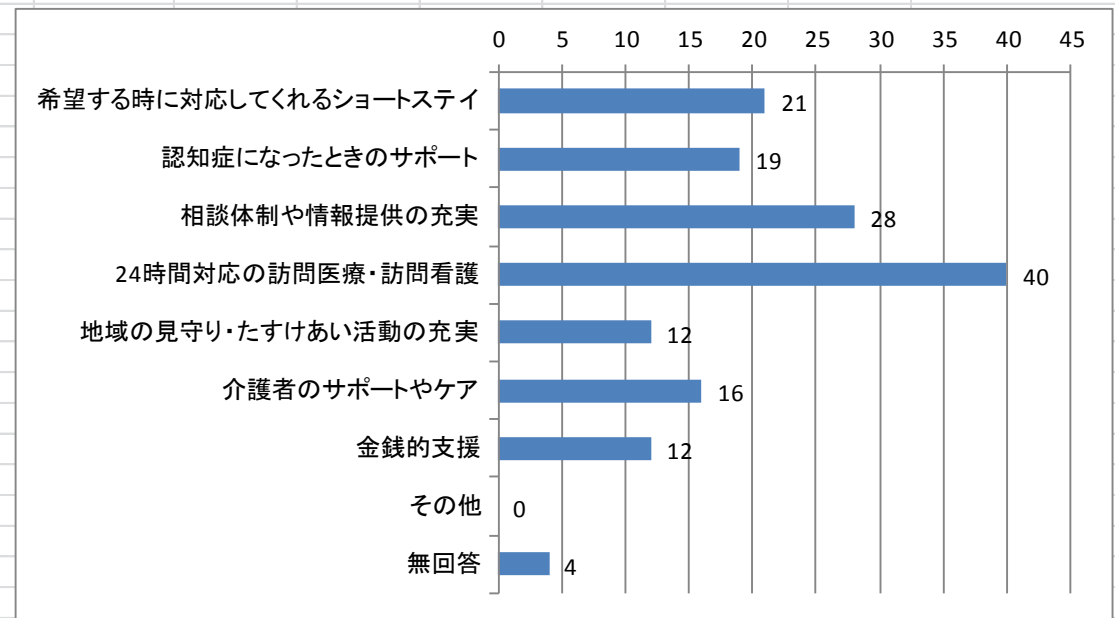
あなたは在宅介護に不安がありますか？

ある	61
ない	5
無回答	8



自分や家族に介護が必要になったとき、今まで通り地域で暮らしていくために、何が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

① 希望する時に対応してくれるショートステイ	21
② 認知症になったときのサポート	19
③ 相談体制や情報提供の充実	28
④ 24時間対応の訪問医療・訪問看護	40
⑤ 地域の見守り・たすけあい活動の充実	12
⑥ 介護者のサポートやケア	16
⑦ 金銭的支援	12
⑧ その他	0
無回答	4



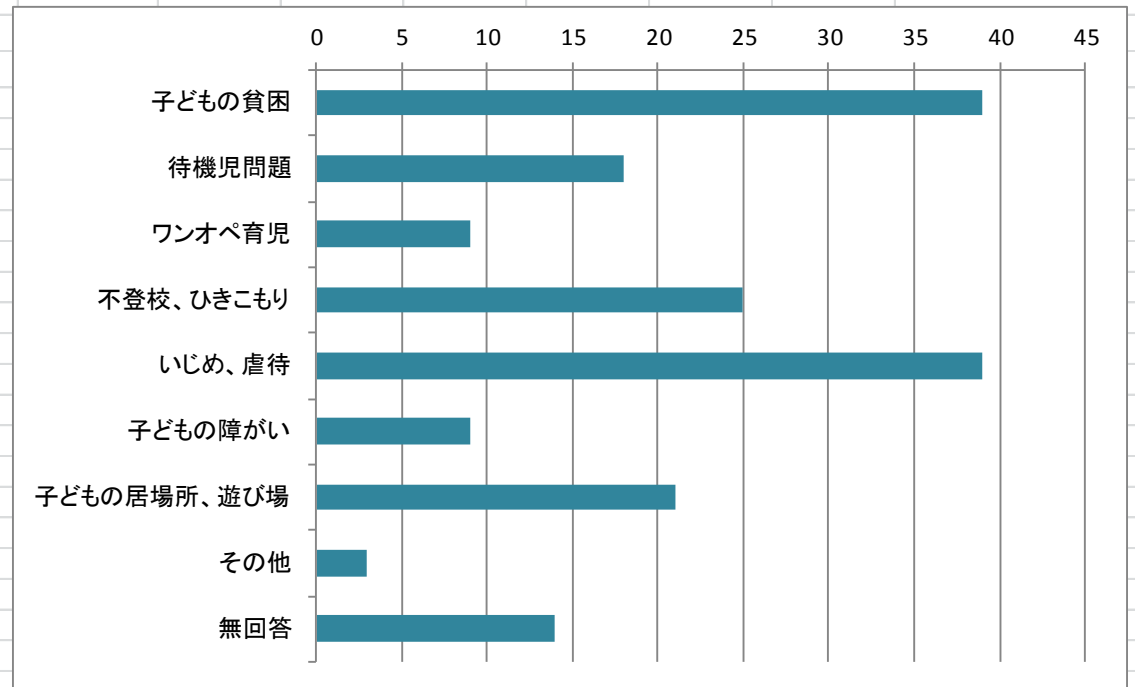
政府は在宅介護にシフトする方針ですが、そのための体制がとれているとは言えません。在宅介護に不安があるかどうかの問いには、不安が「ある」61人、「ない」5人と、圧倒的多数の人が不安を感じています。今まで通りの暮らしに「必要なこと」としては、「24時間対応の訪問医療・訪問看護」が圧倒的に多く、医療との連携の必要性が改めてわかりました。「相談体制や情報提供の充実」が次いで多く、相談・情報提供によって安心が得られることが、在宅介護の負担感を軽減することにつながるのではないかと推測できます。ケアラズ・カフェや認知症カフェなどで、気軽に相談できる場も、在宅介護の負担軽減に寄与するものと思われます。市民力で運営されているそれらのカフェが継続できる支援も求めています。

子ども・子育て支援について

子ども・子育て支援について、あなたが気になること何ですか？(○は3つまで)

① 子どもの貧困	39
② 待機児問題	18
③ ワンオペ育児	9
④ 不登校、ひきこもり	25
⑤ いじめ、虐待	39
⑥ 子どもの障がい	9
⑦ 子どもの居場所、遊び場	21
⑧ その他	3
無回答	14

※ワンオペ育児：あらゆる業務を一人で行う飲食店などでの「ワンオペ業務」から転じて、仕事、家事・育児を夫婦の内いずれかが一人で担うこと



「子どもの貧困」「いじめ、虐待」をあげる人が一番多く39人。

昨年、ネットに取り組んでほしいものとしても、「子どもや女性の貧困」をあげた人が多く、議会で、実態調査や生活困窮世帯への学習支援など求めました。

担当部署の設置には至っていませんが、ひとり親家庭等の実態調査の実施などの成果につながりました。引き続き、粘り強く取り組んでいきます。

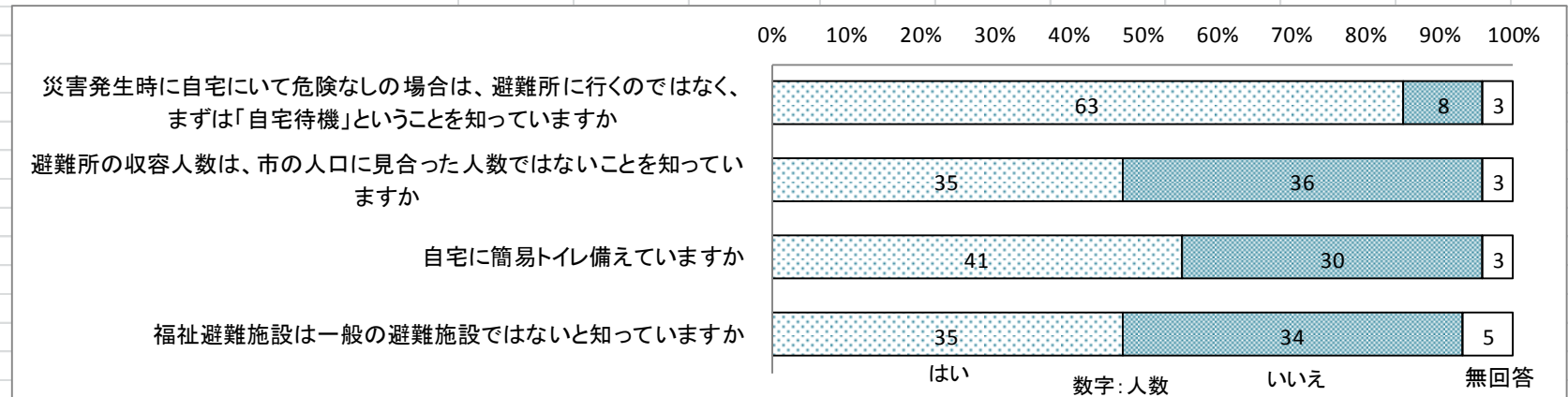
「不登校、ひきこもり」もその次に多くありました。不登校の問題については、議会質問などに取り上げ、また2018年度の予算要望にも「多様な進路選択の方法を提供すること。合同相談会を開催すること」を要望しました。

防災・減災について

防災、減災について、日ごろの意識や準備についてお尋ねいたします。

	はい	いいえ	無回答
① 災害発生時に自宅にいて危険なしの場合は、避難所に行くのではなく、まずは「自宅待機」ということを知っていますか	63	8	3
② 避難所の収容人数は、市の人口に見合った人数ではないことを知っていますか	35	36	3
③ 自宅に簡易トイレ備えていますか	41	30	3
④ 福祉避難施設は一般の避難施設ではないと知っていますか	35	34	5

※福祉避難施設：特別な支援が必要な高齢者・障害者・乳幼児向けに設けられる2次避難所



避難所の収容人数が人口に見合っていないと知っている人、福祉避難施設が一般の避難施設でない知っている人、ともに約47%という結果で、いざという時のために、避難所の役割を周知することが急がれることがわかりました。
簡易トイレを自宅に用意している人は約55%。災害時にトイレが利用できないことや我慢することで体調不良の二次被害を生んでいることを考えれば、全戸に準備が必要のはず。「簡易トイレを備えるよう啓発を行うこと」を生活者ネットからの市への来年度の予算要望に加えることにしました。